

オリンピック週間にもられた

発達段階による遊び

岡田恵子

函館幼稚園の保育計画は、十月の主題が「秋のかんきつ」になっている。東京オリンピックを控え子どもたちにも楽しい遊びを経験させたいと私たち教師は保育計画の中にオリンピックを組み入れることを話し合った。そして子どもたちの遊びがよりよく発展することを期待してオリンピック開催中をすごした。

キンダーブック九月号を手にしてすぐ意外に感じたことは、五・六才用がテーマに「東京オリンピック」を取り上げ、四・五才用は「どうぶつ」を扱っていたことである。私の予想では、年少児であってもオリンピックは年長児と大体同じような影響を持つものと考え、何か片手落ちのような印象をうけた。しかし、オリンピックの開幕と共に皆が興奮と感激の渦にとりまかれている時に、子どもたちはどのような受け止め方をしていたろうか。年長児は予想通り全体でオリンピックを感じ毎日毎日が興奮の連続であった。そ

の一因として考えられることは、九月十五日函館市を通過する聖火リレー隊を市民競技場で迎えたことにもあると思われる。全市幼稚園参加のマスゲームに出演しその終了直後、子どもたちの目の前でリレー隊がトーチを引きつぎ隊列をととのえ走り去った。その時の感激も忘れることのできない経験であったろうと思われる。それに反して年少児は、教師の興奮・喜びの方が大きく子どもたちの反応のあらわれ方がもどかしく思われた。オリンピック半ばで話し合ったことであるが「キンダーブック」の年令別テーマの取り上げ方は妥当であったと言ふことである。

オリンピックが年長児・年少児にどのような遊びとなったか述べてたい。

年少児は余り発展せず受身的で教師の立てた計画になかなかのらない。二週間にまたがった週主題「オリンピック遊び」も、後半は

「くだもの遊び」に変更した。

・言語

月曜日 開会式の影響を話し合いに持って行ったが「見た」と言う程度で終る。

金メダル 三宅選手が取った翌日は、重量あげのことが話題に出た。その後についてはどの選手が何の競技で取ったか男の子が一、二名話した程度にすぎない。

競技種目で何が好きか話し合ってみた。やはり予想した通り金メダルを取った種目を好きと言ったが年長児にみられるような熱っぽい空気までは程遠い感じがした。

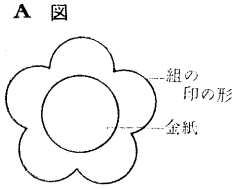
・製作

粘土遊びの時、くだもの列車を協同でつくっていたがその傍に、重量あげ・鉄棒・体操などの表現が四、五点つくられていた。

・自由遊び

年長児の作ったテレビ観覧席に入れて貰いテレビの競技を見てる子どももあったが、多くは外遊びに熱中していた。

しかし年少児にオリンピックの関心がなかったわけではなく「金メダル」の約束が生まれた。何か賞められると組の印の形どった色紙を貰っていたのがオリンピック終了後、子ど



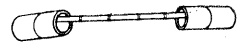
A 図

(1) 表彰風景



B 図

空缶パーペル



もたちの希望によりA図のようにかわった。子どもたちは「金メダル」を貰いたいと今でも張り切った生活ぶりをみせている。

年長児の場合は友だち同志の話題の中に、遊びに活発な反応がみられた。週主題を「オリンピックごっこ」として計画をたてる。活動

の予想は、「健康の」

分野に焦点をおき、発

展的に絵画製作の面に

広がりをもつと考えて

いた。金メダルを獲得

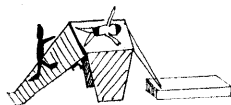
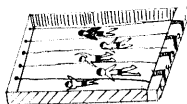
した重量あげの翌日、

あこがれと興奮をませる報告を

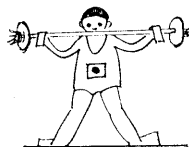
C 図 観覧席 (グループ製作)



空箱のプール (粘土と紙の選手)



とびこみだい



重量あげ (粘土と割箸が主材)

うける。そして早速ボールを、椅子を、旗をバーベルにして重量あげの模倣をはじめ。この反応から

・社会(重量あげごっこ)へと発展させる。

竹棒と粘土・粉えのぐの空缶でB図のようにバーベルをつくる。ルールとして空缶の場合は落とさない人が金メダルときめる。そして表彰台の必要を感じ、さらに金・銀・銅のメダルづくりをはじめ

表彰式風景を再現して遊ぶ。(写真①)

・健康(リレー・とぶ)

(1) 聖火リレーそのまま、トーチをつくりそれをバトンにして紅白にわかれて競争する。

(2) 積木を重ねて飛び込み台をつくり、マットのプールにとびおり、泳いで遊ぶ。

これらは予想し、計画の中にくみ入れていたものであった。とび方に変化をつけるようになったのでとくに注意して遊ばせる。

・絵画製作

(1) 画用紙で、金・銀・銅メダルづくりをする。

(2) いろいろなワッペンをつくり、年少組へプレゼントした。

(3) 立体製作 いろいろの材料(空箱・粘土・割箸・フィルム部品)を使って競技種目を表現する。個々で、あるいはグループの協同

でつくったが、それぞれに創意と工夫がみられた。内容としては話題になったものが多く表現されていた。その一部分は、C図のようなものである。

(4) きのこの折り紙をする。オリンピックの前は遠足の経験などから生まれた表現をしていたが、開会式後では開会式風景、開会中は各種目の内容をミックスした想像力の豊かな表現がみられた。これは年長児三組が意図的に行なったのであるがこのことから幼児の生活経験の重要さを再認識させられた。

・音楽リズム

(1)お面をつくり「動物のオリンピック」の曲にあわせて動きのリズム表現をする。一番その動物によく似た友だちを応援グループで選び表彰メダルをかけて、くり返し楽しむ。

(2)「オリンピックまつり」の曲をきいて各種目を取り入れた表現を考える。聖火リレーからはじまりいろいろの動きが出たが、重量あげ・ホートこぎ・マラソン・やり投げ・表彰などにまとまる。

ワッペンをつくり胸に日の丸をつけて十一月・文化の日を祝う遊戯会に発表した。本年度の遊戯会はオリンピック的表現が盛たくさんにおり込まれた。

・言語(ことばあそび)

開会式をみて、競技をみて子どもたちなりの感激とか感想の発表の中から記録したものを二・三編あげる。

その(1) オリンピックは美しい (女兒六才二か月)

日の丸の旗はいいなあ

飛行機や風船をとばそ

オリンピックは美しいなあ

その(2) 僕たちも大きくなったら(男児六才一か月)

金メダルをとるように

一生けんめい大きくなろう

その(3) かけ足かけ足早いなあ(男児五才九か月)

円盤なげの円盤にもしのつたら

きつといい気持ちたろう

オリンピックの競技を実際に見た子どもは二名あったが、他の子どもたちは家庭でのテレビ視聴による経験であった。しかし子どもたちとくに年長児の遊びは映像に色づけ肉つけして個々の持つ想像・創造力を充分に発揮して遊び予想以上の発展的な遊びをさせることができた。年長児・年少児の一才の年令の開きがこのような差を持って遊びにあらわれたことは数少なく、私たち教師は発達段階による遊びの発展のしかたに貴重な経験をし、これからの保育計画に充分生かしていきたいと思う。

また、オリンピックの遊びが開催中に集中されたのも、テレビの映像に刺激された子どもの経験活動であってこれは地域的な刺激材の相違であると考え終了後はとくに保育活動の中にくみ入れなかったことをつけ加える。

(函館幼稚園)

☆

☆

☆